

福祉サービス第三者評価 評価結果

【保育所】

金沢ふたば保育園

横浜市金沢区富岡東二丁目 1-14

運営主体：社会福祉法人 黎明会

実施概要	1 ページ
総合評価（評価結果についての講評）	2～4 ページ
評価領域ごとの特記事項	5～6 ページ
分類別評価結果	7～17 ページ
利用者家族アンケート分析・集計結果	18～24 ページ
利用者本人調査分析	25～26 ページ
事業者コメント	27 ページ

2011年2月28日公表

実施機関：特定非営利活動法人 市民セクターよこはま



実施概要

事業所名	金沢ふたば保育園（保育所）		
事業所への 報告書提出日	2010年12月28日	評価に要した期間	4ヶ月間
評価機関	特定非営利活動法人 市民セクターよこはま		

評価方法

<p>1、自己評価</p> <p>実施期間 2010年8月29日～2010年10月29日</p>	<p>非常勤職員も含め、全職員が記入した。 各個人が記入したものを元に集計表を作成、職員会議で園全体の傾向を確認した。 リーダー会議で意見交換しながら、一項目ずつ確認・合意した。 主任、副園長、園長で最終確認し、一つにまとめた。</p>
<p>2、利用者家族アンケート調査</p> <p>実施期間 2010年10月18日～2010年10月31日</p>	<p>全園児の保護者（96世帯）に対して、保育園側からアンケート用紙を手渡しで配付した。 各保護者より、返信用封筒で、評価機関にあてて無記名で返送してもらった。</p>
<p>3、訪問実地調査</p> <p>実施日：第1日 2010年11月15日 第2日 2010年11月19日</p>	<p>[第1日] 午前：各クラスで保育観察。 昼食：各クラスで園児と一緒に食べながら、保育観察。 午後：書類調査。園長・副園長・主任に面接調査。</p> <p>[第2日] 午前：朝は登園の様子を観察。その後、各クラスで保育観察。 昼食：各クラスで園児と一緒に食べながら、保育観察。 午後：各クラス担任保育士4名、幼児リーダー、調理師1名、非常勤職員1名、主任に個別に面接調査。 その後、園長・副園長・主任に面接調査。 最後に意見交換を行い、終了。</p>
<p>4、利用者本人調査</p> <p>実施日：第1日 2010年11月15日 第2日 2010年11月19日</p>	<p>観察調査は、調査員が各クラスに分かれて実施し、戸外・園外での活動も観察した。 幼児を中心に、観察調査や昼食で同席した際に、会話の中で適宜聞き取りを実施した。</p>

総合評価（評価結果についての講評）

【施設の概要】

金沢ふたば保育園は横浜新都市交通シーサイドライン「南部市場」駅から徒歩1分の福祉関連施設が建ち並ぶ一角にあります。公務員住宅とマンションが2棟あるほかには民家はほとんどありませんが、近くに南部市場や富岡総合公園があり、豊かな自然や様々な人に触れる機会があります。

金沢ふたば保育園は2003年（平成15年）4月に社会福祉法人黎明会によって開設されました。同じ金沢区内に姉妹園として学校法人が運営する幼稚園があります。

園舎は鉄筋コンクリート造の2階建てで、1階のホールは吹き抜けとなっており、日当たりもよく開放的な空間が広がっています。園庭は全面芝生で、片隅には畑があり、子どもたちが野菜を育てています。広々とした2階のベランダは木製で子どもたちがはだして遊べるようになっています。ベランダにはシャワーの設備が整い、夏にはプール遊びができます。

定員は90名（産休明け～5歳児）、開所時間は平日は7時～20時、土曜日は7時～16時30分です。

保育理念は「子ども一人ひとりを大切に、保護者からも信頼され、地域に愛される保育園を目指します」、保育方針は「21世紀を担う子どもたちが明るく心豊かに育つ保育を行います」です。具体的な保育目標として「明るく元気な伸び伸びとした子ども」「自然に親しむ感性豊かな子ども」「一人ひとりに添った保育」を掲げています。

高く評価できる点

1、子どもたちはのびのびと思いやりをもって毎日を過ごしています

金沢ふたば保育園では、「大きな家の大家族」をイメージした縦割り保育を取り入れています。幼児クラスは週1回異年齢で活動する「ミックスベジタブル」という時間を設けており、「ミック」「ジャガー」「よねぞう」という3グループに分かれて活動しています。また、お手伝いや遊びを通して、日常的に乳児クラスと触れ合っています。このような取り組みを通して、年上の子どもたちが年下の子どもたちをごく自然に思いやる気持ちが育っています。観察時にも、年上の子どもが年下の子どもを遊びに誘ったり、遊び方をさりげなく教えたりする姿が見受けられました。また、年下の子どもたちも、お兄さんお姉さんを見習ってマネをしており、お互いに育ち合う関係ができています。

また、幼児が活動する時には、保育士は子どもたちに何をやりたいかを問いかけ、子どもたちが自分で考え、納得して活動に取り組めるよう支援しています。乳児は一人ひとりのペースに添って、ゆったりと過ごし、午睡前には一人ひとり保育士のひざで好きな絵本を読んでもらうなどスキンシップをたくさんとってもらっています。このような働きかけの結果、子どもたちは落ち着いてのびのびと過ごしています。

このようにして、保育方針の「21世紀を担う子どもたちが明るく心豊かに育つ保育を行います」が実践されています。

2、保育士は自信をもって、自分たちの目指す保育を実践しています

開設以来、保育士は皆で協力し、知恵を出し合って現在の保育園の体制を作り上げてきました。どのような保育園を作りたいかを皆で考え、話し合い、試行錯誤しながら様々な問題を解決してきたことは、保育士の自信と団結につながっています。開設当初からの保育士は現在はリーダーとなっており、その後に採用された保育士をひっぱっています。

全職員が参加する職員会議のほか、リーダー会議、クラスの話し合い、週案会議などが開かれ、保育に

ついて話し合っています。このような話し合いを通してお互いの保育について常に意見を交換し、情報を共有し、連携して保育にあたっています。相対的に常勤職員が多く、朝夕の時間帯も常勤職員が担当しているので情報の共有はできていますが、非常勤職員に対しても非常勤職員対象の週案会議で主任が丁寧に情報の周知徹底を図っています。

また、安全委員会、食育委員会、研修委員会などの委員や行事の担当が決まっており、それぞれの保育士が役割を持ち、責任をもって業務に当たることができるようになっていきます。

このような体制のもと、保育士は自信を持って、自分たちの目指す保育を行っています。

3、食育に力をいれています

金沢ふたば保育園では「食べ物をありがたくいただく」「食べ物をおいしくいただく」「食べ物を楽しくいただく」を3つの柱として食への取り組みを行っています。

畑で野菜を栽培し調理することを通して、食物の中の原材料に関心を持たせ、栽培する人たちの苦勞を体験から学べるようにしています。例えば、小麦を育て実際に製粉しパンを作ってみたり、誕生会の寸劇にそれぞれのクラスが育てた野菜を入れたパン作りを取り上げたりし、子どもたちが理解できるようにしています。

給食の時には、2歳児では保育士がよそう時に量を確認して自分が食べられる量が理解できるように働きかけ、3歳児以上では自分で食べられる量を考えて自分でよそっています。また、2歳児で食後にテーブルの上で同じ種類のお皿を重ね、コップだけは台車に運ぶことから始め、徐々に段階を追って自分たちで配膳したり、片づけたりできるようにしています。

配膳や片付けだけでなく、給食のお手伝いとしてたまねぎやトウモロコシの皮むきをし、たまねぎの皮で染色したり、野菜のへたでスタンプ遊びをしたりなど、遊びの中で食材へ関心を持つような取り組みも行っています。また、近くの南部市場へ散歩に行き、給食で食べる食材を売っているところを見たり、お店の人と会話する機会も作っています。

離乳食から幼児食までの間に一人ひとりの発達に合わせてスプーンを5種類使うなど、離乳食への対応は特に丁寧に行っています。

このような働きかけの結果、子どもたちの食への関心は高く、食べ残しはほとんどありません。保護者アンケートにおいても、食に関してはほぼ全員から満足との回答を得ています。

独自に取り組んでいる点

1、教育に関わる要素を保育の中に数多く取り入れています

園では教育に関わる要素を日常の保育の中に数多く取り入れ、「養護」と「教育」の一体化を積極的に進めています。

誕生会などの行事において誕生月の子どもが食に関する寸劇を演じたり、子どもたちが考えた季節の歌を皆で歌うなど、行事にも教育的な要素を取り入れています。また、幼児は英語と造形を月2回ずつ外部講師から学ぶ機会もあります。

遊びにおいても、夏の幼児のプール遊びに習熟度別の5つのコースを設定したり、鉄棒や跳び箱のクラブ活動を行ったりしています。これらのコース選択やクラブ活動への参加は、子どもたちの自主性に任されており、保育士は子どもの興味をひくよう声をかけたり、励ましたりして支援しています。

また、「金曜日劇場(金劇)」と称して、毎週、職員による寸劇や器楽演奏、手品、あるいはクラスやグループによる子どもたちの出演もある、共に楽しむ時間を設けています。

このように遊びの中にも、養護に関わる要素のみでなく教育に関わる要素を重視して取り入れ、計画的にカリキュラムに沿って進めています。

2、近隣との良好な関係作りを工夫しています

園の周りには民家はありませんが、福祉関連施設や南部市場、工場などが並んでおり、子どもたちはこのような近隣の施設の人々と挨拶をかわし、日常的に交流しています。

南部市場には、散歩に出かけ見学したり、クッキング保育の材料を買いに行ったりしています。お店の人たちも子どもたちのことを知っており、子どもたちに話しかけてくれます。市場で働く人たちの様子を見たり、実際にお店の人と会話したりすることを通し、子どもたちは多くの社会経験をしています。

特に、高齢者福祉施設とは、子どもたちが施設の畑にジャガイモを掘りにでかけたり、ふたばっこ祭りや運動会などの園の行事にお年寄りたちを招待したりするだけでなく、日常的に散歩の途中で立ち寄ってお年寄りたちとおしゃべりをしたり、歌を聞いてもらったりして交流しています。このような地域との交流を通して、子どもたちは多くのことを学び成長しています。

地域の子育て支援についても、公務員住宅の子育て支援サークル（たんぽぽの会）と、双方の話し合いのもとで年間計画をたてて、毎月1回定期的に出張保育（出前保育）を行っています。保育士が子どものトラブルについての講話や歯磨き指導などの企画を行うほか、育児に関する相談にも対応し、交流しています。また、夕涼み会、運動会、ふたばっこ祭、もちつき会などの行事を通しての交流保育も実施するなど、近隣に対し専門性を活かしたサービスの提供に努めています。

改善や工夫が望まれる点

1、 将来に向けての新たなビジョンを作りだすことが望めます

園では、将来の保育園運営の方向性について、園長、副園長、主任の間で常に話し合いを重ねています。しかし、具体的な計画としては施設の保全や整備などについてしかありません。園の運営や経営などについて将来どのような方向を目指していくかの目標・ビジョンを明確にすることが望めます。

人材育成としては、個人目標シートを用いて保育士の資質向上に努めるとともに、研修委員会がどのような研修を受けたいかの職員アンケートを行い、保育士の意向を反映した研修計画を作成し実行しています。開園後8年を経てリーダーが育ってきたので、今後は保育のスキルだけでなく、将来の幹部育成も研修計画に盛り込むことを期待します。

また、保育士のモチベーションを高め、刻々変化する保育園を取り巻く環境に対応するためにも、今後は外部の専門家やコンサルタントなどの意見を積極的に取り入れる仕組みも必要かと思われます。

評価領域ごとの特記事項

このページは、かながわ福祉サービス第三者評価推進機構が定めた「評価領域」に則って記載しています。

1、人権の尊重

- ・ 保育の理念は、「子ども一人ひとりを大切にし、保護者からも信頼され、地域に愛される保育園を目指します」、保育目標は「明るく元気なびのびとした子ども、自然に親しむ感性豊かな子ども、一人ひとりに添った保育」というように、利用者本人を尊重したものになっています。
- ・ 守秘義務マニュアル、個人情報保護規程、情報管理規程があり、全職員に周知しています。ボランティア、実習生については守秘義務について説明し、誓約書をとっています。また、個人情報の取り扱いについて保護者に説明し了解を得ています。
- ・ 健康、安全管理マニュアルに虐待の予防、早期発見などの対策を掲載し、全職員に周知しており、虐待が明白になった場合や疑わしい場合には、南部児童相談所と連携する体制ができています。
- ・ 保育士は子どもに対しゆっくりと分かりやすい言葉で穏やかに話しかけ、せかすことなく子どもの話をよく聞いています。

2、意向の尊重と自立生活への支援に向けたサービス提供

- ・ 3、4、5歳児は異年齢での活動として3つのグループに分かれて活動する「ミックスベジタブル」の時間を週1回設けています。
- ・ 行事の際に5歳児が0、1歳児を迎えに行き一緒に座るなど、日常的に手伝ったり、一緒に遊んだりする機会を設けています。観察時にも、年上の子どもが年下の子どもを手伝ったり、仲間に誘ったり、遊び方を教えたりする姿が随所で見受けられ、子どもたちが思いやりをもって過ごしています。
- ・ 旬の食材を用いるようにし、食材は主に南部市場から、安全性を確認して仕入れています。安全のため、野菜は全て湯通ししてから調理しています。また、化学調味料を用いず全てだしをとって、カレーも手作りしています。
- ・ 園内の畑やプランターで大根、サツマイモ、カブ、ピーマンなどの野菜を育て、調理して食べたり、5歳児は小麦を栽培し、挽いてパンを作る取り組みを行いました。
- ・ 2歳児から食事の後にお皿やコップを片付け始め、幼児になると徐々に配膳を始めるなど、段階を追って配膳・片づけを行っています。
- ・ 子どもの成長・発達にあわせ、5種類のスプーン、3種類のコップ、2種類の皿を使い分けています。
- ・ 一斉活動において、幼児は、活動の順番を決めるためにくじ引きをしたり、話し合っどどのように行かを決めたりしています。5歳児になると、一人ひとりの意見を聞いて自分たちで話し合っど決めることが出来るようになっていきます。
- ・ 「とびばこくらぶ」「なわとびぴょんぴょんカード」など、興味を持った子どもたちが自主的に参加し、遊びを通して学べるような取り組みを行っています。保育士は、子どもが参加している友だちの姿を見て興味を持った時を見計らって声をかけて誘い出し、子ども自身が自分から参加するよう支援しています。
- ・ 周辺には自然に触れられる公園が多く、天気の良い日は毎日散歩に出かけています。近隣の南部市場、工場、高齢者福祉施設などと交流し、挨拶や会話を交わしています。

3、サービスマネジメントシステムの確立

- ・ 働く母親の都合などを考慮して、大きな行事については、土曜日に行うなど保護者の参加しやすい日を設定しています。また、保護者の要望で延長保育時間も20時までとするなど、保護者の実情を考慮しています。
- ・ 0、1歳児について個別に指導計画を作成して、子どもの発達状況に即して見直しを行っています。
- ・ 0歳児は「生活時間表」を使い、1、2歳児は「乳幼児用連絡帳」を使って、保護者との間で丁寧なコミュニケーションが取られています。
- ・ 特に配慮を要する子どもを積極的に受け入れています。また、職員会議では、配慮を要する子どもについての意見が交換されています。
- ・ 外国籍の子どもを受け入れ、生活習慣、考え方の違いを尊重して認め合う保育をしています。食事の時に、その国の料理を出して、子どもたちにそのことを説明したり、あいさつの言葉をその国の子どもから教わるなど、子どもたちが文化や、生活習慣が異なる事を理解出来るように配慮しています。

- ・ 苦情を受け入れるためのマニュアルがあり、明文化されています。また要望・苦情を受け付ける担当者が決まっています、入園時のしおりで保護者に知らせています。
- ・ 苦情を受け入れるためのマニュアルがあり、それに従って問題を解決するように努力しています。また、過去の苦情・トラブルのデータはファイルとして保存していて、問題解決に活かされています。
- ・ 第三者委員が決められていて、玄関の掲示には第三者委員の電話番号が掲示されており、直接苦情を申し立てることができるようになっていました。
- ・ 衛生管理、安全管理に関するマニュアルがあります。マニュアルは事故や災害に適切に対応しており、全職員に配布しています。
- ・ 建物は耐震構造になっていて、119番通報専用電話、火災通報装置、非常用放送設備、を設置し、消防署、警察署、セキュリティ会社への緊急連絡体制が確立しています。毎月火災、地震、風水害などを想定した避難訓練を行っています。また、水消火器による訓練も行っています。

4、地域との交流・連携

- ・ 地域の育児サークル(たんぼぼの会)との月1回の交流を通して施設に対する要望を把握しています。また、園庭開放の際にも、保護者との会話からニーズを聞いています。
- ・ 地域の育児サークル(たんぼぼの会)にて、子どものトラブルについての講和や歯磨き指導、食育などの企画を行っています。
- ・ 日常的に近くの高齢者福祉施設と交流していて、子どもたちが施設にジャガイモ掘りに出かけたり、お年寄りを園の行事に招待したりしています。
- ・ 5歳児は並木第一小学校3年生と年間を通して計画的に交流しています。
- ・ ボランティア、実習生を積極的に受け入れています。ボランティア・実習生受入規程があり、それに基づき、オリエンテーション時に園の方針、利用者への配慮などを説明しています。

5、運営上の透明性の確保と継続性

- ・ 組織および職員が不正・不適切な行為を行わないような倫理規定が就業規則の中で規定されています。これについては日常の会議の中で話がされています。
- ・ 定員外の受け入れのような重要な園の決定事項については保護者に丁寧に説明し、理解を求めています。
- ・ 経営や運営の情報は、保護者会などで公表しています。
- ・ 施設の保全計画や整備計画などはありますが、園の運営や経営などの中長期的な目標やビジョンは明確にはなっていません。

6、職員の資質向上の促進

- ・ 職員の人材育成のために、個々の職員の目標シートを作成しています。毎年、資質向上に向けた目標を定め、さらに期末にはその達成度の評価も行っています。
- ・ 研修計画は研修委員会で職員に対するアンケートを行うなど、職員のニーズに対応して計画を策定しています。
- ・ 職員の技術の向上のために、研修委員会、リーダー会議などで保育サービスの見直しを行っています。自分の必要なスキルを自分の課題としてとらえ直しています。
- ・ 実習生を積極的に受け入れていて、実習目的に応じたプログラムを工夫しています。実習終了後には、懇談、反省会を行い、感想・意見を聞いています。
- ・ 保育の技術を向上させるために、内部の研修は十分に取り組んでいますが、今後は外部の機関、あるいは指導者から評価・指導などを受ける取り組みが求められます。
- ・ 開園後8年を経てリーダーが育ってきたので、今後は保育のスキルだけでなく、将来の幹部育成も研修計画に盛り込む事が期待されます。

分類別評価結果

横浜市評価基準を使用しています。評価基準の詳細については、横浜市健康福祉局「福祉サービス第三者評価」のホームページ <http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/hyouka/index.html> を参照して下さい。



「ひょう太」の数の意味は以下の通りです。

3つ：高い水準にある 2つ：一定の水準にある 1つ：改善すべき点がある

評価分類の結果は、各分類を構成する1～6つの項目の評価結果で決まります。「ひょう太」が1つしかつかない項目が1つでもあると、その項目の属する評価分類の結果は「ひょう太」1つとなります。

評価領域 利用者（子ども）本人の尊重

評価分類	評価の理由(コメント)
<p>- 1 保育方針の共通理解と保育計画等の作成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育の理念は、「子ども一人ひとりを大切にし、保護者からも信頼され、地域に愛される保育園を目指します」としていて、保育目標は 明るく元気なのびのびとした子ども、 自然に親しむ感性豊かな子ども、 一人ひとりに添った保育、というように、利用者本人を尊重したものになっています。 ・ 保育課程の作成にあたっては、職員会議などで説明する際に、職員からの意見を汲み取っています。 ・ 保護者に対しては、保育課程などについては、年2回の保護者会、毎月の園便りなどで説明しています。 ・ 保育課程に基づき、年齢別の指導計画を策定しています。 ・ 運動会・発表会などの内容は、子どもたちの意見を取り入れて実施しています。また、散歩の行き先を子どもの要望を活かして変更するなど、子どもの主体性を大切にし、柔軟性を持たせています。
<p>- 2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 0、1歳児の日常の活動に関してはクラス担任が全員で関わる態勢を取っています。食事に関しては担当保育士が決まっています。 ・ 入園時に児童票を用い、生活のリズム、離乳食、食べた事のある食べ物、食物アレルギー、食事で困っている事など生育歴を把握しています。 ・ 0歳児は『生活時間表』（連絡帳）を使い、1、2歳児は『乳幼児用連絡帳』を使って、保護者との間で丁寧なコミュニケーションが取られています。 ・ 年齢別の年間指導計画、月案、週案を作成しています。 ・ 週案会議や職員会議、クラスごとの話し合いなどで、計画の評価・見直しを行っています。話し合いには常勤職員は全員参加していて、非常勤職員にも意見を聞いています。また個別面談でも保護者の意向を把握し、計画に活かしています。

- 3 快適な施設環境の確保



- ・ 全部屋にプラズマ空気清浄機を置き、ウィルス、ホコリなどを除去しています。さらに床暖房や加湿器により、室温や湿度を適切に管理しています。
- ・ 0、1歳児の保育室のトイレには沐浴設備があり、温水シャワーは1階テラス、2階テラスに設置されています。沐浴設備、シャワーは清潔に保たれ、管理が行き届いています。
- ・ 園舎は吹き抜けの構造となっていて、音が伝搬しやすいですが、特別保育室、ホールを適宜使用し、保育による騒音を軽減しています。保育士はお互いにスペースを調整して使用しています。
- ・ 食べるスペースと寝るスペースは明確に分けられています。
- ・ ホールでの遊びなどを通じて、日常的に異年齢が交流しています。

- 4 一人ひとりの子どもに個別に対応する努力



- ・ 0、1歳児について個別に指導計画を作成していて、子どもの発達状況に即して見直しを行っています。
- ・ 個別支援担当の保育士を置き、担任とともに支援計画の作成、保護者面談の援助を行っています。
- ・ 個別記録は事務室に保管していて、必要に応じて保育士は見る事ができます。また個別支援会議を随時開催し、見直しを行い、保護者との面接などに活かしています。これらの個人記録は、進級後も保管されていて、保育の計画に活かしています。

- 5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み



- ・ 特に配慮を要する子どもを積極的に受け入れています。また、職員会議では、配慮を要する子どもについての意見が交換されています。
- ・ 階段はゆるい昇降で、障がい児でも上り下りが楽にできるようにしてあります。その他の平面はほとんど段差を作っておらず、障がい児保育のための環境整備に配慮しています。
- ・ 障がいがある子どもなど特に配慮が必要な子どもについては個別の支援計画を作成しています。
- ・ 障がい児については時に応じ自主勉強会を開いており、全職員で学習し、話し合える体制を作っています。
- ・ アレルギーのある子どもについては、医師の意見書を提出してもらい、適切な指示を受けています。またアレルギーの除去食については、保護者との面談で毎月調整しています。
- ・ アレルギーに関して職員の研修を行い、知識や情報を共有しています。
- ・ 外国籍の子どもを受け入れ、生活習慣、考え方の違いを尊重して認め合う保育をしています。食事の時に、その国の料理を出して、子どもたちにそのことを説明したり、あいさつの言葉をその国の子どもから教わるなど、子どもたちが文化や、生活習慣が異なる事を理解出来るように配慮しています。

- 6 苦情解決体制



- ・ 苦情を受け入れるためのマニュアルがあり、明文化されています。
- ・ 要望・苦情を受け付ける担当者が決まっています、入園時のしおりで保護者に知らせています。
- ・ 第三者委員が決められていて、玄関の掲示には第三者委員の電話番号が掲示されており、直接苦情を申し立てる事ができるようになっています。
- ・ 保護者に対しては、様々なイベントの時にアンケートを実施していて、これらから園への要望や苦情を把握しています。
- ・ 苦情を受け入れるためのマニュアルがあり、それに従って問題を解決するように努力しています。また、過去の苦情・トラブルのデータはファイルして保存していて、問題解決に活かされています。

評価領域 サービスの実施内容

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 保育内容[遊び]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 絵本、おもまごと、パズル、お絵かきなどのコーナーを設置し、子どもが落ち着いて遊べるよう配慮しています。おもちゃ類は低い棚に並べられ、子どもが自分で取り出して遊ぶことができます。また、子どもが片付けやすいよう棚やかごにおもちゃの名前や写真を貼っています。 ・ 乳児には布おもちゃ、牛乳パックやペットボトルを用いた手作りおもちゃ、幼児にはパズルやゲームなど年齢や発達にふさわしいおもちゃを用意しています。 ・ 一斉活動において、幼児は、活動の順番を決めるために話し合っ、くじ引きやじゃんけんなどの方法を決めています。5歳児になると、一人ひとりの意見を聞いて自分たちで話し合っ決めて決めることができるようになっていきます。 ・ 「とびばこくらぶ」「なわとびびょんぴょんカード」など、興味を持った子どもたちが自主的に参加し、遊びを通して学べるような取り組みを行っています。保育士は、子どもが参加している友だちの姿を見て興味を持った時を見計らっ声をかけて誘い出し、子ども自身が自分から参加するよう支援しています。 ・ 園内の畑やプランターで大根、サツマイモ、カブ、ピーマンなどの野菜を育て、調理して食べたり、野菜スタンプなどの制作に用いたりしています。5歳児は小麦を栽培し、挽いてパンを作る取り組みを行いました。 ・ 誕生会では各クラスで栽培した小麦、サツマイモ、パプリカなどで「ふたばパン」を作る寸劇をするなど、自然な形で食べ物について考える機会を設けています。 ・ 周辺には富岡総合公園、長浜公園、船だまり公園など自然に触れられる場所が多く、天気の良い日は毎日散歩に出かけています。園の周辺には民家はありませんが、近隣の南部市場、工場、高齢者福祉施設などと交流し、挨拶や会話を交わしています。 ・ 遊びの中に野菜スタンプや小麦粘土、ひっかき絵などを取り入れ、子どもが自由に自分を表現できるよう工夫しています。 ・ 幼児においては月2回、外部講師から造形絵画と英語を学ぶ機会を設けています。 ・ 子ども同士のけんかなどについては、乳児の場合は近くで見守り、手が出る時は間に入って言葉で言うよう伝えていきます。幼児の場合は子ども同士で解決するよう危険がない限り見守り、最後にお互いの気持ちを整理して問いかけ、子どもが自分で考えられるよう支援しています。観察時にも、幼児は子ども同士で話し合い解決する場面が見受けられました。 ・ 幼児は週1回異年齢で活動する「ミックスベジタブル」の時間を設けています。また、行事の際に5歳児が0、1歳児を迎えに行き一緒に座るなど、日常的に手伝ったり、一緒に遊んだりする機会を設け

ています。観察時にも、年上の子どもが年下の子どもを手伝ったり、仲間に誘ったり、遊び方を教えたりする姿が随所で見受けられました。

- ・ 毎月2回、4・5歳児は体操の時間を設けています。
- ・ プール遊びでは、0、1歳児はビニールプールやたらいでの水遊び、2～5歳児は習熟度別プール遊びと子どもの発達に応じて運動能力を高められるよう工夫しています。コースは水を顔にかけられたくない「ちゃぶちゃぶコース」から水の中で泳げる「イルカコース」まであり、子どもの自己申告制でその子のペースや興味に合わせ無理なく進められるようになっています。

- 1 保育内容[生活]



- ・ 0、1歳児は、保育士が一人ひとりの子どもの食事の量を把握し、子どもが食べきれる量をよそっています。2歳児になると、保育士が自分の食べられる量を一人ひとりに確認してよそい、子ども自身が食べられる量が理解するように支援しています。幼児になると、自分で食べられる量を判断し、一人でよそうことができます。
- ・ 離乳食を食べさせる時には、保育士は子どもの発達にあわせ、一対一あるいは二対一で子どもに付き、ゆっくりと子どものペースに合わせています。保育士は「もぐもぐ」「おいしいよ」「えらいね」などと声をかけ、子どもが自分から食べるよう励ましています。
- ・ 2歳児から、食事の後にテーブルの上で同じ種類のお皿を重ね、コップだけは台車に運ぶことから始め、幼児になると徐々に配膳を始めするなど、段階を追って配膳・片づけを行っています。
- ・ 3、4、5歳児は1階のホールに集まり、皆で楽しく食べています。
- ・ 旬の食材を用いるようにし、食材は主に南部市場から、安全性を確認して仕入れています。安全のため、野菜は全て湯通ししてから調理しています。また、化学調味料を用いず全てだしをとっており、カレーも手作りしています。だしをとった後のいりこも揚げて食べており、子どもたちに大人気です。
- ・ 子どもの成長・発達に合わせ、5種類のスプーン、3種類のコップ、2種類の皿を使い分けています。
- ・ 月1回の食育委員（保育士）、栄養士、調理師、園長、副園長、主任による献立会議を開催して子どもの喫食状況についての情報交換を行い、献立、調理方法、刻み方などに反映しています。
- ・ 2歳以上の保護者は誕生会に参加した後、子どもと一緒に食事をすることができます。0、1歳児の保護者にはビデオで食事風景をみてもらっています。また、0歳児の保護者を対象に離乳食についての講習を行っています。
- ・ 乳幼児突然死症候群（SIDS）対策として、うつ伏せ寝にならないよう注意するとともに、5分おきにチェックし記録しています。
- ・ 排泄チェック表を用いて一人ひとりの排泄のリズムを把握し、個別に対応しています。トイレトレーニングは一人ひとりの発達状況に合わせて、保護者との連携の上で行っています。

- 2 健康管理・衛生管理・
安全管理 [健康管理]



- ・健康管理マニュアルがあり、それに基づき一人ひとりの健康状態を把握しています。
- ・2歳児は歯医者さんごっこを遊びに取り入れたり、園からのクリスマスプレゼントとして歯ブラシと手作りの歯磨きカードを渡したりして歯磨きへの関心を誘っています。3歳児以上は食後に歯磨きを行い、保育士が仕上げ磨きをしています。
- ・歯科衛生士から指導を受けた保育士が、子どもたちに歯磨き指導を行っています。
- ・一人ひとりの健康診断、歯科健診の記録があり、児童ファイルに保管しています。健康診断・歯科健診の結果は保護者に連絡帳で伝えていきます。
- ・感染症などへの対応に関するマニュアルがあります。また、入園のしおりに登園停止基準や保育中に感染症の疑いが生じた場合の対応を明記し、保護者に周知しています。
- ・保育中に発症した場合は保護者に連絡し、感染を防ぐために別室にて保育しています。また、感染症が発症した場合は、ただちに掲示し、情報提供しています。

- 2 健康管理・衛生管理・
安全管理 [衛生管理]



- ・衛生管理に関するマニュアルがあります。マニュアルは、職員からの意見をもとに、年度の切り替え時に見直しを行っています。
- ・マニュアルに基づき清掃などが行われ、清潔・適正な状態が保たれています。

- 2 健康管理・衛生管理・
安全管理 [安全管理]



- ・安全管理に関するマニュアルがあります。マニュアルは事故や災害に適切に対応しており、全職員に配布しています。
- ・建物は耐震構造になっており、119番通報専用電話、火災通報装置、非常用放送設備、を設置し、消防署、警察署、セキュリティ会社への緊急連絡体制が確立しています。
- ・防災教育として、紙芝居やDVD、大地震の写真などを子どもたちに見せ意識付けを行っています。毎月火災、地震、風水害などを想定した避難訓練を行っています。また、水消火器による訓練も行っています。
- ・保護者への緊急連絡体制として、電話のほかに携帯メールを利用しています。
- ・子どものケガについては、軽傷であっても必ず保護者に連絡しています。また、首から上のケガや判断に迷うような状況の時は病院で受診することとしており、病院に行く時は必ず保護者に電話で連絡するとともに降園時に、担任が口頭で説明しています。
- ・事件事例、ヒヤリハット事例は記録し、安全委員会、リーダー会議、職員会議などで報告し、改善策について話しあっています。また、保護者に対しても大きな事故については掲示し報告しています。
- ・入り口は施錠し、ICカード、防犯カメラを導入しています。不審者対策マニュアルを策定し職員に周知するとともに、不審者対策訓練を実施しています。

- 3 人権の尊重



- ・ 保育士は子どもに対しゆっくりと分かりやすい言葉で穏やかに話しかけ、せかすことなく子どもの話をよく聞いています。
- ・ コーナーや階段の下など友だちや保育士の視線を意識せずに過ごせる場所があります。また、必要に応じて、間仕切りを用いてプライバシーを守れる場所を用意することができます。
- ・ 守秘義務マニュアル、個人情報保護規程、情報管理規程があり、全職員に周知しています。ボランティア、実習生については守秘義務について説明し、誓約書をとっています。また、個人情報の取り扱いについて保護者に説明し了解を得ています。
- ・ 健康、安全管理マニュアルに虐待の予防、早期発見などの対策を掲載し、全職員に周知しています。虐待が明白になった場合や疑わしい場合には、南部児童相談所と連携する体制ができています。
- ・ 性差による固定観念はもっていませんが、職員同士で特に話し合いをする機会は、いまのところ設けていません。

- 4 保護者との交流・連携



- ・ 年2回の懇談会において保育の基本方針について保護者に説明しています。また、「入園のしおり」「ふたばっこ保育の特色」「金沢ふたば保育園施設概要・保育課程」及び園のホームページなどに保育方針を明記しています。
- ・ 0歳児は複写式の『生活時間表』（連絡帳）、1、2歳児は『乳幼児用連絡帳』を用い毎日子どもの様子を伝えています。幼児については必要な時に連絡ノートを用い伝えています。また、特に配慮が必要な子どもに対しては、連絡帳とは別のノートを作り、保護者と密に情報交換しています。
- ・ 保護者から相談を受けた担任は主任に報告、必要に応じて主任が対応、ケースによっては副園長、園長に相談、助言を受けられる体制ができています。相談は個人記録に記録し、継続的なフォローができるようになっていきます。
- ・ 毎月園便り『ふたばっこ』を発行しています。『ふたばっこ』には園長の言葉や園からのお知らせ、各クラスだより、月間計画、調理室だより、保健ニュースなどを載せその月の園生活について保護者に情報提供しています。毎日の保育の様子については1階の保護者コーナーに掲示しています。
- ・ 2～5歳児は、誕生会の時にその月に誕生日を迎えた子どもの保護者がお父さん先生、お母さん先生として保育参加し、子どもたちと一緒に遊び、給食を食べる機会を設けています。0、1歳児に関してはビデオ参観を行っています。保育参観については保護者が希望すれば、随時受け入れています。
- ・ 保護者組織はできていませんが、テラスの修理や夕涼み会、もちつきなどの手伝いに保護者の有志が参加し、交流や意見交換を行っています。

評価領域 地域支援機能

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の育児サークル（たんぼぼの会）に対し月1回定期的に出張保育（出前保育）及び交流を行っており、その交流を通して施設に対する要望を把握しています。また、園庭開放の際にも、保護者との会話からニーズを聞いています。 ・並木地区子育てエンジョイ委員会に園長が、富岡地域ケアプラザでの地域福祉施設連絡会に事務職員が参加し、子育て支援ニーズを把握しています。 ・月1回子育て担当の保育士と主任で子育て支援会議を開き、子育て支援ニーズについて話し合い、子育て支援計画を作成しています。また、地域の育児サークル（たんぼぼの会）とは双方の話し合いのもと、年間計画を作成しています。 ・一時保育、園庭開放を行っています。また、夕涼み会、運動会、ふたばっこ祭、もちつき会などの行事を通しての交流保育を行っています。 ・地域の育児サークル（たんぼぼの会）において、保育士は子どものトラブルについての講話や歯磨き指導、食育などの企画を行っています。
<p>- 2 保育園の専門性を活かした相談機能</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・育児相談を実施しています。相談日は特に設けていませんが、いつでも相談を受け付けており、その旨を区の広報紙に掲載しています。また、育児サークル（たんぼぼの会）や園庭開放に参加した保護者の相談にもものっています。 ・区役所、南部地域療育センター、南部児童相談所と日常的な連携ができています。

評価領域 開かれた運営

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 保育園の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・園の周辺は、民家は少ないですが、福祉関連施設や工場などがあり、近隣の施設とは園の行事へ誘ったり、見学に出かけたりと積極的に働きかけ、交流を図っています。 ・散歩の際に、子どもたちと保育士は地域の住民と挨拶をかわしています。 ・子どもたちは、南部市場に買い物にでかけ市場の人々と交流しています。 ・日常的に近くの高齢者福祉施設と交流しており、子どもたちが施設にジャガイモ掘りに出かけたり、お年寄りを園の行事に招待したりしています。 ・5歳児は並木第一小学校3年生と年間を通して計画的に交流しています。 ・子どもたちは地域の公園のゴミ拾いをしています。
<p>- 2 サービス内容等に関する情報提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・園のパンフレット、ホームページに園の情報を提供しており、園として進んでサービス内容の詳細、料金、職員体制など必要な情報を提供しています。 ・横浜市のホームページ（はびねすぼっと）に園の情報を載せています。 ・利用希望者の問い合わせに対しては、園長が常時対応しています。利用希望者には事前見学をすることを勧めており、見学希望者の希望に沿って日程調整しています。
<p>- 3 ボランティア・実習の受け入れ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア受入規程、実習生受入規程があり、それに基づきオリエンテーション時に園の方針、利用者への配慮などを説明しています。 ・職業体験学習の中学生、インターンシップの高校生、大学生の学生ボランティアなどを積極的に受け入れています。 ・実習生を積極的に受け入れており、実習目的に応じたプログラムを工夫しています。実習終了後には、懇談、反省会を行い、感想・意見を聞いています。

評価領域 人材育成・援助技術の向上

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 職員の人材育成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員の人材育成のために、個々の職員の目標シートを作成しています。毎年、資質向上に向けた目標を定め、さらに期末にはその達成度の評価も行っています。 ・ 研修計画は研修委員会で職員に対するアンケートを行うなど、職員のニーズに対応して計画を策定しています。 ・ 内部研修は定期的、かつ頻繁に行われています。非常勤職員も内部研修には参加出来る仕組みとなっています。 ・ 園外の研修は毎年計画的に参加し、その研修記録もきちんと整備しており、誰でも見る事ができるようになっています。研修の成果を日々の保育に活かしています。 ・ 日常の保育の中で常勤職員と非常勤職員の間で意見の交換を行ったり、主任と非常勤職員との間でコミュニケーションを図るようにしています。また、非常勤職員は必ず常勤職員と組んで働いています。さらに非常勤職員に対しては、週案会議で内部研修の内容を伝えていきます。
<p>- 2 職員の技術の向上</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員の技術の向上のために、研修委員会、リーダー会議などの中で、保育サービスの見直しを行っています。職員は自分に必要なスキルを自分の課題としてとらえ直しています。 ・ 外部研修のほか、内部研修の場を設けて、技術向上に取り組んでいます。 ・ 保育の技術を向上させるために、内部の研修は十分に取り組んでいますが、今後は外部の機関、あるいは指導者から評価・指導などを受ける取り組みが求められます。
<p>- 3 職員のモチベーション維持</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個人目標シートで職員は毎年個人の目標、資質向上の計画を作成する事が求められています。 ・ 研修委員会では職員アンケート調査を行い、職員の研修ニーズを把握し、それを参考にした研修計画を作成しています。 ・ 研修委員会だけでなく、安全委員会、食育委員会、個別支援担当、地域支援担当、行事担当など、各種委員会、担当を決め、職員の経験や能力を活かして、現場への権限委譲を図っています。 ・ 園長、副園長は職員との面談を毎年行い、職員からの提案や要望を受けたり、満足度を把握しています。

評価領域 経営管理

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 経営における社会的責任</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 組織および職員が不正・不適切な行為を行わないような倫理規定が就業規則の中で規定されています。これについては日常の会議の中で話がされています。 ・ 経営や運営の情報は、保護者会などで公表しています。 ・ 園庭を芝生にしたり、緑のカーテンなどで園の緑化に積極的に取り組んでいます。 ・ 夕涼み会、ふたばっこまつり、もちつき会などの行事の際、ゴミを出さない工夫として、家庭から箸、茶碗などの食器を持参してもらったり、ペットボトルのふたを回収するなど、エコ活動に積極的に取り組んでいます。また、行事のチラシなどに、エコ活動への取り組みを明文化しています。
<p>- 2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育課程は全職員に配布しています。また、リーダー会議や職員会議の場で、園の目標、基本方針などを確認しています。 ・ 定員外の受け入れのような重要な園の決定事項については保護者に丁寧の説明し、理解を求めています。 ・ 主任はクラスを担当せず、個々の職員の状況を把握し、的確な指導・助言を行っています。 ・ クラス担当や、リーダーが育ってきている段階なので、計画的に主任クラスを育成するプログラムはまだ作成していません。しかし、今後準備していく予定です。
<p>- 3 効率的な運営</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業運営に影響のある行政の動き、他の保育園の動きなどの情報は常時収集分析しています。また、その結果をリーダー会議などで共有しています。 ・ 施設の保全計画や整備計画などはありませんが、園の運営や経営などの中長期的な目標やビジョンは明確にはなっていません。 ・ リーダー会議などで、園全体の運営について関心を持たせ、結果として幹部職員としての育成を図っています。 ・ 運営に関しては、理事会の理事に多くの専門家があり、意見を求めています。ただし、外部のコンサルタントなどの意見を求めた事は特にありません。

利用者（園児）家族アンケート 分析

- 1、実施期間 2010年10月18日～10月31日
- 2、実施方法 保育園から全園児の保護者に直接配付（手渡し）し、回答を依頼。
各保護者より、同封の返送用封筒で、評価機関あてに無記名で返送。
- 3、回収率 60.4%（96枚配付、58枚回収）
- 4、所属クラス 0歳児クラス...13人、1歳児クラス...10人、2歳児クラス...11人、3歳児クラス...9人、
4歳児クラス...11人、5歳児クラス...4人

同一家族で複数名が園に在籍している場合は、下の子どものクラスについて回答。
文中の「満足」「満足度」は、「満足」・「どちらかといえば満足」の回答を合計した数値、
「不満」は、「不満」・「どちらかといえば不満」の回答を合計した数値です。

アンケート調査に見る金沢ふたば保育園の特徴

1. 問4「日常の保育内容について」

給食と遊びへの満足度が高くなっています。特に「給食の献立内容」は100%、「子どもが給食を楽しんでいるか」については98.5%と給食については満足している割合が極めて高くなっています。また「クラスの活動や遊びについて子どもが満足しているか」については98.2%、「自然に触れたり地域に関わるなどの園外活動について」では97.5%と給食と同様の高い満足度でした。

「給食はとてもおいしく、家で食べないものも食べれている。」「食事には力を入れてくれて本当に感謝している。」という意見や「園外保育も多く、保育内容に関しては満足」というのがその代表的な意見です。ただし、「生活」の他の側面、たとえば「子どもの体調への気配り」については、やや満足度が低くなっています。例えば「半袖、半ズボンで体を鍛えるとのことだが、風邪をひいている時や病みあがりの時には、例外として認めてほしい。」など、園の方針がきちんと保護者に伝わっていないと思われる意見が見受けられました。今後の工夫が望まれます。

2. 問5「快適さや安全対策などについて」

快適さや安全対策も満足度が高くなっています。この中では「施設設備について」は93.1%、「外部からの不審者侵入を防ぐ対策について」は89.7%とほぼ9割が満足しています。「ICカードもそうですが、何より遅くまで沢山の先生方が子供を見て頂けていることは安心。」という安全対策に対する意見、「感染症のお子さんが出た時など教えてもらえるのはありがたい。」という感染症に対する意見が見られます。しかし同じ感染症対策でも「感染症の連絡が遅すぎる。」「感染の疑いで登園を控えるように言われる。」といった声も見られました。

3. 問7「職員の対応について」

「自分の子どもが大切にされているか」「子どもが保育園生活を楽しんでいるか」という質問では96.6%と極めて高い満足度となっています。自由意見では「一人一人の子供の個性を尊重し、愛情を持って接してくれている」「迎えの時、今日一日の子どもの様子など必ず話しをしてくれて昼間の様子がわかる」「突然の相談等、主任の先生を含めて、すぐに対応してくれる」などと肯定的な意見が見られました。ただし、「職員によってバラツキがある」「心から対応している職員とそうでない職員の差がある」といった意見も見られました。

利用者（園児）家族アンケート集計結果

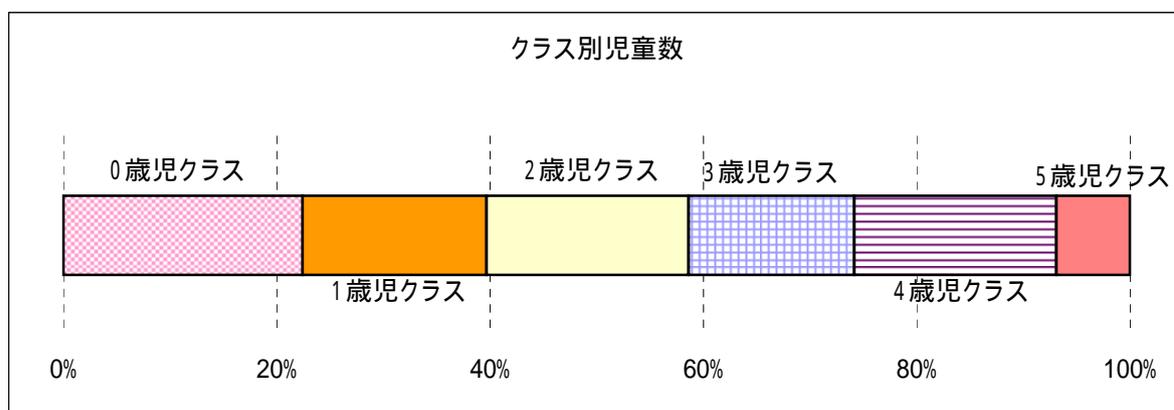
実施期間： 2010年 10月18日～10月31日

回収率： 60.4% （回収58枚 / 配布96枚）

【属性】

クラス別児童数							(人)
合計	0歳児クラス	1歳児クラス	2歳児クラス	3歳児クラス	4歳児クラス	5歳児クラス	無回答
58	13	10	11	9	11	4	0

同一家族で複数名が園に在籍の場合は、下の子どものクラスで記入



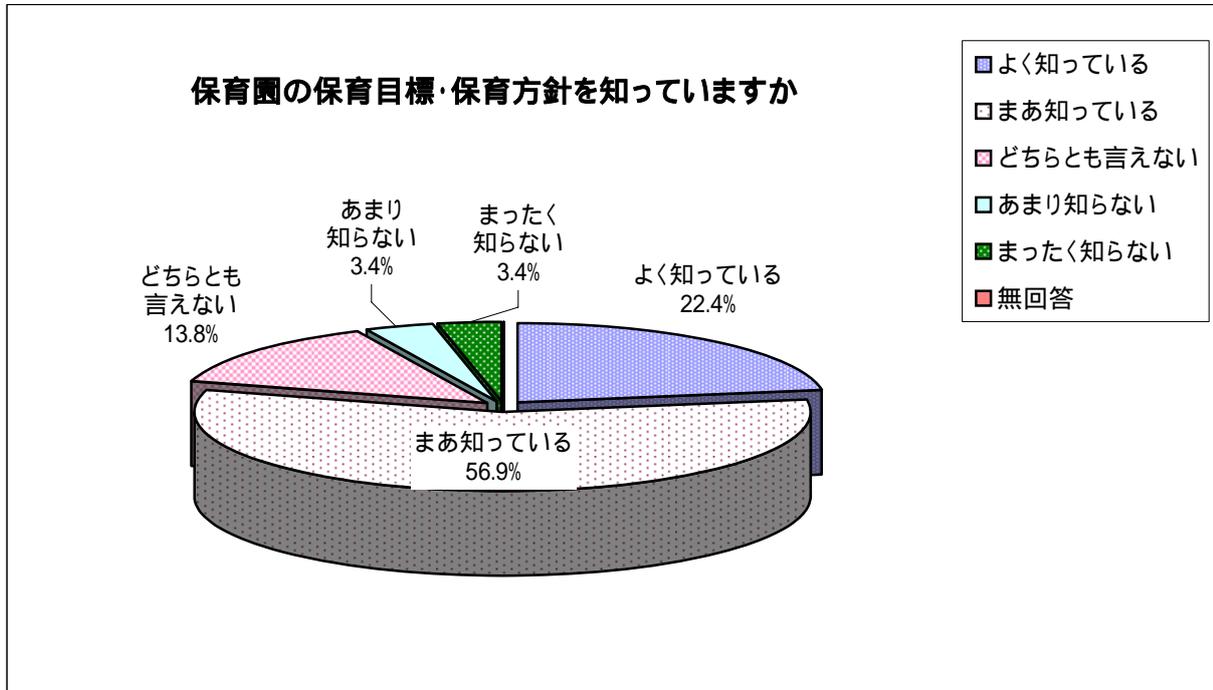
保育園の基本理念や基本方針について

問1: 保育園の保育目標や保育方針を知っていますか

(%)

問1:	よく知っている	まあ知っている	どちらとも言えない	あまり知らない	まったく知らない	無回答	計
あなたは、この園の保育目標・保育方針をご存じですか	22.4	56.9	13.8	3.4	3.4	0.0	100

(%は小数第1位まで表示し、合計の小数第1位を四捨五入すると100%になります。)

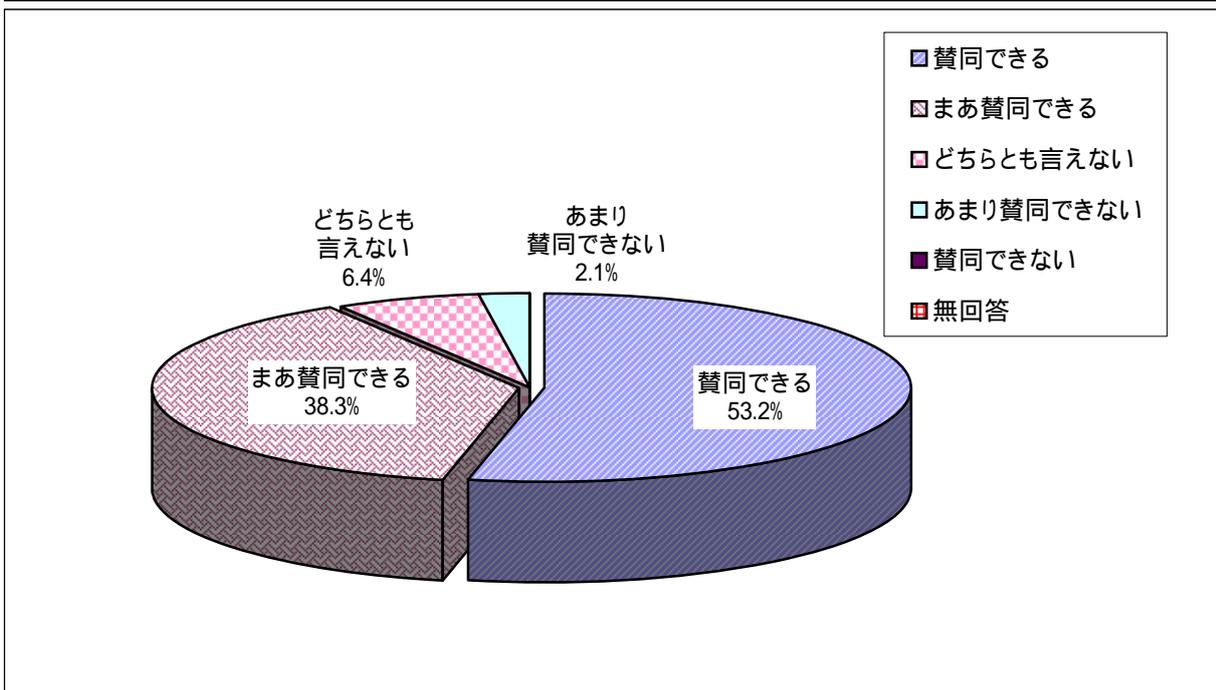


「よく知っている」「まあ知っている」と答えた方への付問

付問1: その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか

(%)

付問1:	賛同できる	まあ賛同できる	どちらとも言えない	あまり賛同できない	賛同できない	無回答	計
あなたは、その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか	53.2	38.3	6.4	2.1	0.0	0.0	100



保育園のサービス内容について

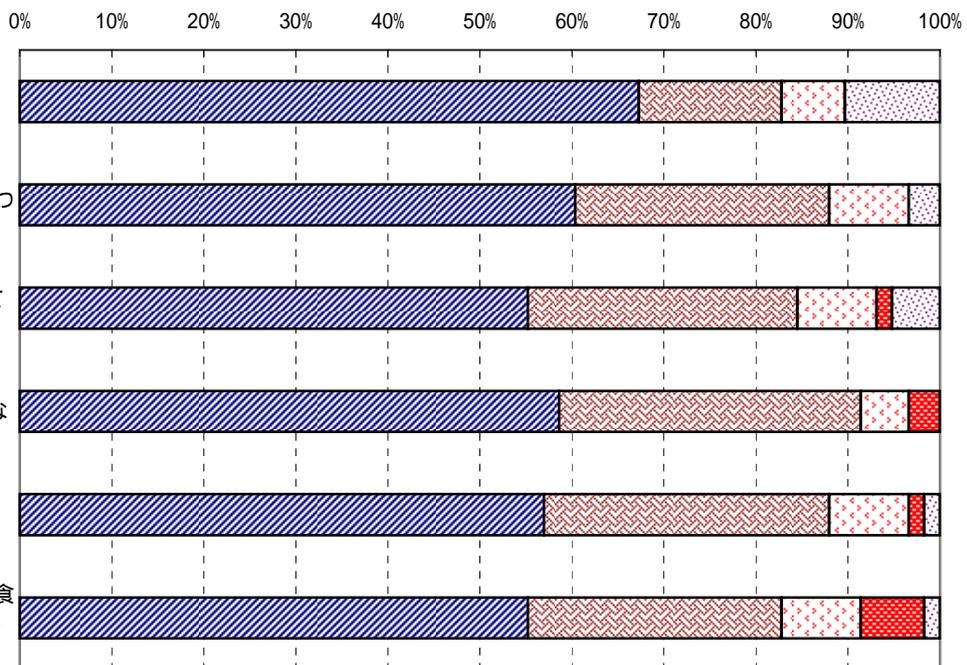
問2 入園時の状況について

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
見学の受け入れについて	67.2	15.5	6.9	0.0	10.3	0.0	100
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	60.3	27.6	8.6	0.0	3.4	0.0	100
園の目標や方針についての説明には	55.2	29.3	8.6	1.7	5.2	0.0	100
入園時の面接などで、お子さんの様子や生育歴などを聞く対応には	58.6	32.8	5.2	3.4	0.0	0.0	100
保育園での1日の過ごし方についての説明には	56.9	31.0	8.6	1.7	1.7	0.0	100
費用やきまりに関する説明については(入園後に食い違いがなかったかなども含めて)	55.2	27.6	8.6	6.9	1.7	0.0	100

入園時の状況について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答



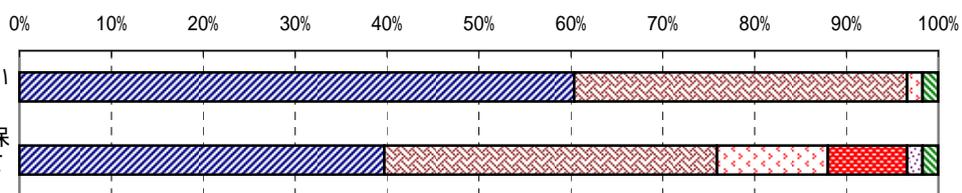
問3 年間の計画について

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
年間の保育や行事についての説明には	60.3	36.2	1.7	0.0	0.0	1.7	100
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	39.7	36.2	12.1	8.6	1.7	1.7	100

年間の計画について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答



問4 日常の保育内容について

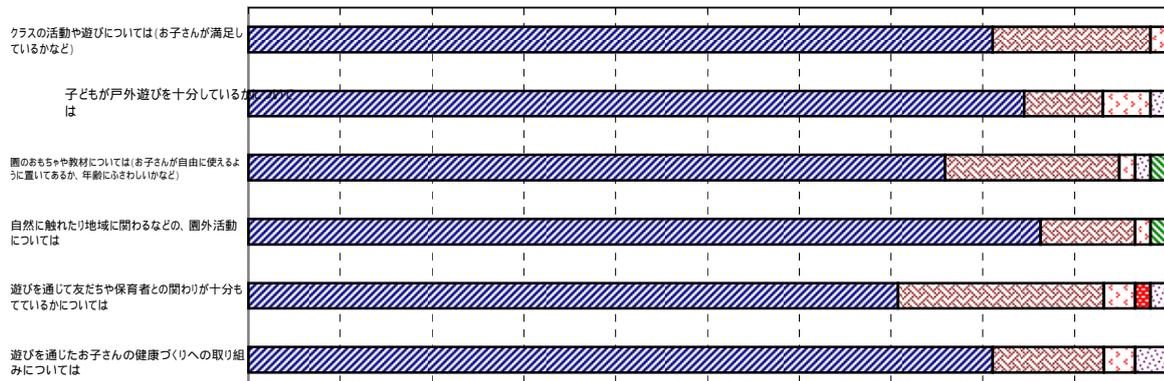
(%)

「遊び」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
クラスの活動や遊びについては(お子さんが満足しているかなど)	81.0	17.2	1.7	0.0	0.0	0.0	100
子どもが戸外遊びを十分しているかについては	84.5	8.6	5.2	0.0	1.7	0.0	100
園のおもちゃや教材については(お子さんが自由に使えるように置いてあるか、年齢にふさわしいかなど)	75.9	19.0	1.7	0.0	1.7	1.7	100
自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	86.2	10.3	1.7	0.0	0.0	1.7	100
遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分もっているかについては	70.7	22.4	3.4	1.7	1.7	0.0	100
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	81.0	12.1	3.4	0.0	3.4	0.0	100

日常の保育内容「遊び」について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



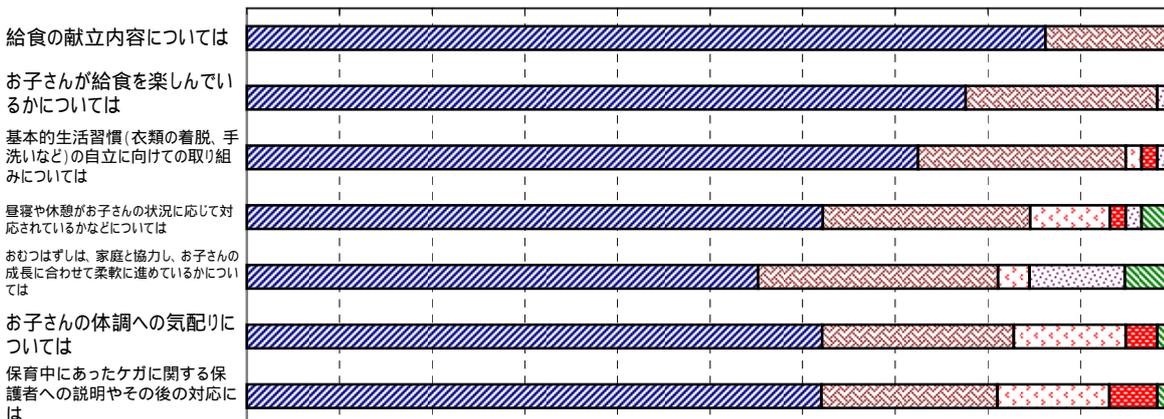
(%)

「生活」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
給食の献立内容については	86.2	13.8	0.0	0.0	0.0	0.0	100
お子さんが給食を楽しんでいるかについては	77.6	20.7	0.0	0.0	1.7	0.0	100
基本的な生活習慣(衣類の着脱、手洗いなど)の自立に向けての取り組みについては	72.4	22.4	1.7	1.7	1.7	0.0	100
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	62.1	22.4	8.6	1.7	1.7	3.4	100
おむつはずしは、家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めているかについては	55.2	25.9	3.4	0.0	10.3	5.2	100
お子さんの体調への気配りについては	62.1	20.7	12.1	3.4	0.0	1.7	100
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	62.1	19.0	12.1	5.2	0.0	1.7	100

日常の保育内容「生活」について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



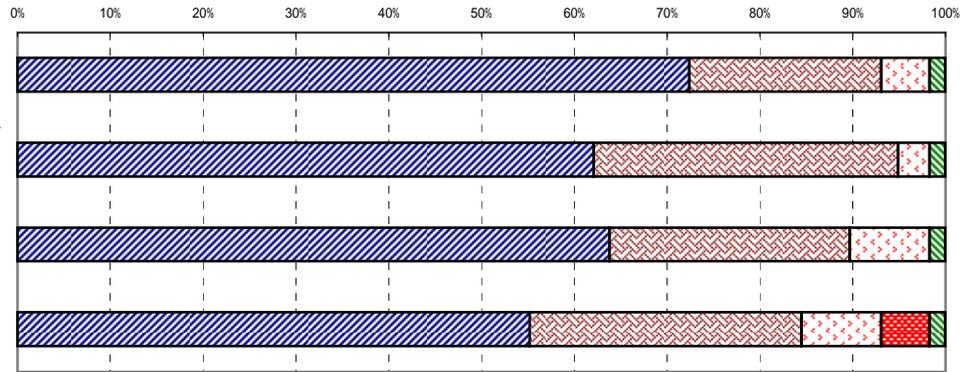
問5 快適さや安全対策などについて

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
施設設備については	72.4	20.7	5.2	0.0	0.0	1.7	100
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気になっているかについては	62.1	32.8	3.4	0.0	0.0	1.7	100
外部からの不審者侵入を防ぐ対策については	63.8	25.9	8.6	0.0	0.0	1.7	100
感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	55.2	29.3	8.6	5.2	0.0	1.7	100

快適さや安全対策などについて

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答



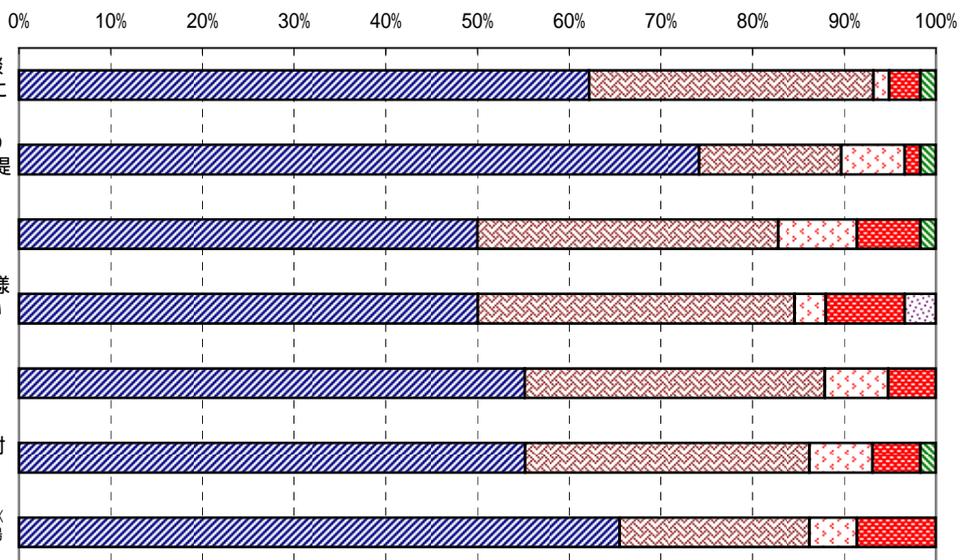
問6 園と保護者との連携・交流について

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	62.1	31.0	1.7	3.4	0.0	1.7	100
園だよりや掲示による、園の様子や行事に関する情報提供については	74.1	15.5	6.9	1.7	0.0	1.7	100
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	50.0	32.8	8.6	6.9	0.0	1.7	100
送り迎えの際のお子さんの様子に関する情報交換については	50.0	34.5	3.4	8.6	3.4	0.0	100
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	55.2	32.8	6.9	5.2	0.0	0.0	100
保護者からの相談事への対応には	55.2	31.0	6.9	5.2	0.0	1.7	100
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応には	65.5	20.7	5.2	8.6	0.0	0.0	100

園と保護者との連携・交流について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答



問7 職員の対応について

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
あなたのお子さんが大切にされているかについては	69.0	24.1	5.2	0.0	1.7	0.0	100
あなたのお子さんが保育園生活を楽んでいるかについては	75.9	20.7	1.7	0.0	1.7	0.0	100
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	60.3	19.0	3.4	0.0	13.8	3.4	100
話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	62.1	27.6	5.2	1.7	3.4	0.0	100
意見や要望への対応については	58.6	27.6	6.9	5.2	0.0	1.7	100

職員の対応について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答

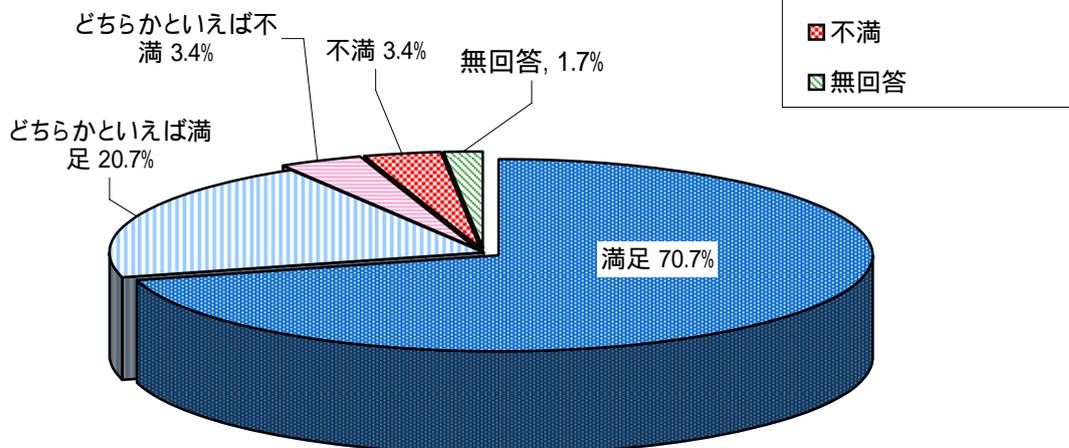
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



問8 保育園を総合的に評価すると

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	無回答	計
総合満足度は	70.7	20.7	3.4	3.4	1.7	100



利用者（園児）本人調査 分析

観察調査 11月15日（月）9：00～18：20 11月19日（金）8：30～17：00

観察中、幼児を中心に、会話の中で適宜聞き取りを行いました。

0、1歳児クラス（ひよこ組、チューリップ組）

朝、登園すると0、1歳児合同での自由遊びです。絵本を読んだり、バックにおもちゃを入れて運んだり、布を身体に巻きつけたり、2人で会話したりとそれぞれ思い思いに遊んでいます。布団に横になる子どもがいたら、近くにいた子どもがそっと布をかけ、トントンたたいて寝かせつけるマネをします。

皆でドラ猫のダンスを踊ったあと、ひよこ組、チューリップ組に分かれておやつを食べます。朝の挨拶で、保育士に名前を呼ばれると手を上げて答えます。ひよこ組は保育士に全部やってもらいますが、チューリップ組になるとおせんべいの袋をあけたり、食べ終わったら自分でエプロンはずし自分のかごに片付けたり、できることは自分でします。

園庭での自由遊びでは、砂場でケーキ屋さんごっこをしたり、砂山を作ったり、芝生でボール遊びをしたりして遊びます。うまく遊べない子どもには保育士がそっと近づき、遊び方を見せて誘います。おもちゃの取り合いの時は、保育士が間に入りお互いの気持ちを代弁し言葉で言うように手助けしています。

食事の時は子どもの発達に合わせて、ひよこ組は子ども1、2人に1人、チューリップ組では子ども3人に1人保育士がついて子どものペースに合わせてゆっくり食事します。「もぐもぐ」「一口食べてみようね」「おいしいね」などとやさしく声をかけています。せかされることなく、自分のペースで向き合ってもらっているので、どの子どもも落ち着いてよく食べています。

2歳児クラス（たんぽぽ組）

コーナー遊びではおままごと、人形、絵本、お姫様ごっこと思い思いに遊びます。お鍋にいっぱい野菜をつめて食べるマネをしている子ども、人形を布団の上にならべひたすら寝かせ続けている子ども、お姫様の衣装を着てうっとり見つめている子ども、友だちと絵本を見る子どもとそれぞれ楽しそうです。保育士はそばで見守り、子どもの遊びの相手になったり、遊びを発展させる手助けをしたりしています。

観察日2日目は誕生会でしたので、クラスでも誕生日のお祝いをしました。保育士がブタとトナカイのぬいぐるみを使って今日は何の日かを子どもたちに問いかけます。子どもたちは集中して聞いています。そのあと、誕生日の子どもが前に出ると、皆で「ハッピーバースディ」の歌を歌い、フェルトでできたケーキを回して皆で食べるマネをしました。

食事の時には保育士が一人ひとりに食べる量を確認してよそいます。保育士がお皿に手を添える、肘をつかないなど食事のマナーを指導しているので、多くの子どもたちが左手をお皿に添えて食べています。食べ終わるとテーブルの上で同じ種類のお皿を重ねてコップを台車に運びます。お昼寝の時は、一人ひとり保育士のひざの上で自分で選んだ絵本を読んでもらってから布団に入りました。

3、4歳児クラス（さくら組、ひまわり組）

誕生会のあと、さくら組、ひまわり組合同で近くの富岡総合公園まで散歩に出かけました。3歳児と4歳児が手をつなぎ、道路を渡るときは手を上げます。最初に何をやるか、どこまで行ってもよいかの説明を聞いた後、焼き芋の時に用いるプラタナスの葉を皆で集めました。子どもたちは自由に葉を拾い、大きな袋につめていきます。中には葉で遊んでいる子どももいます。

園に戻るとたらいで足を洗い中に入ります。靴の中のゴミを丁寧に出す子どももいます。給食は自分で自分が食べられる量をよそいます。皆よく食べ、食べ残しはほとんどありませんでした。

5歳児（ゆり組）

誕生会の始まる前に皆でチューリップ組に迎えに行き、1歳児とペアになって座ります。皆年下の子どもの面倒をみるのがうれしそうです。

誕生会のあと、皆で育てた小麦を挽く実験をしました。今回はすり鉢とすりこ木を使った実験です。グループに分かれどのようにしたら挽けるかを話し合います。お互いの言い分が食い違いけんかになるグループがあり、皆で話し合うこととなります。お互いの言い分を聞くことが出来ずなかなかまとまりません。保育士は黙って見ていましたが、なかなかまとまらないので間に入り双方の言い分を聞き、どのようにすれば話し合いがまとまるかのアドバイスをします。その後子どもたちが皆でまた話し合っ何とかが話がまとまり、小麦を挽く実験を続けました。

ミックスベジタブル（異年齢クラス）

観察日初日は異年齢クラスでの「ふたばっこ祭りごっこ」でした。直前の土曜日に行われた園行事「ふたばっこ祭り」の振り返りの遊びです。

保育士の声でテラスにでますが、出るのが遅れた3、4歳児がいると5歳児が言われなくとも戻ってきて連れて行きます。「ミック」「ジャガー」「よねぞう」の3チームに分かれる時も、5歳児が中心となつてすぐに分かります。どのような順番で回るかを皆で話し合い、あみだくじで決めました。保育士は、活動の中で何かを決めるときは必ず子どもたちの意見を聞いています。

制作コーナー、感触コーナー、こまコーナーと回りますが、皆思い思いのやり方で楽しんでいます。制作にうまく入れない年下の子どもを年上の子どもが声をかけて誘ったり、やり方を教えたりする姿が見られます。年下の子どもたちも、一生懸命周りのマネをして頑張ります。0、1、2歳児も見学に来て、一緒に混じって遊びます。

給食の時間が近づき、3歳児から用意に入ります。テラスでの感触コーナーの片付けは最後に残った5歳児が手伝いました。皆上手に雑巾をしぼり、一斉に雑巾がけをします。お手伝いをする姿はとても楽しそうです。

誕生会

観察日2日目は11月の誕生会でした。誕生会には全園児と2～5歳までの誕生月の子どもの保護者がお父さん先生、お母さん先生として参加します。この日は、それぞれのクラスで育てた小麦、サツマイモ、パプリカ、ゴーヤを使ってふたばパンを作るという寸劇を誕生日の子どもたちが演じました。1歳児以上は自分たちが作った野菜が出てくるので、興味を持って見えています。劇の後は誕生月の子どもと保護者が前に並んで皆に紹介され、園長からプレゼントをもらいました。

まとめ

明るく、開放的な空間の中、子どもたちはのびのびと一日を過しています。

異年齢クラスの活動だけでなく、日常的に遊びやお手伝いを通して異年齢のふれあう機会が多くあり、年上の子どもたちは年下の子どもたちを自然に思いやり、手助けしています。

乳児は一人ひとりのペースに合わせゆっくりと対応してもらっているので、皆落ち着いて過しています。できることは自分でやるよう保育士はそばで見守っており、子どもたちは身の回りのことを自分でやるよう育っています。

幼児は保育士の援助を受け、友だちと話し合っ決めたり、解決したりする力を身につけています。

第三者評価事業者コメント

開設 8 年目にしてようやく第三者評価を受審することができました。目標としては前年度受ける計画でしたが、受けるからには自信を持って受けたいという気持ちもあり、これまでは、特に地域子育て家庭に対する支援面で不十分なところがあったために、1 年間延期せざるをえませんでした。

受審結果は良すぎるくらいの評価を受け、面映いのですが、逆に自信を持って保育に取り組んできた職員一同の努力の現われとして、今後ますますよりよい保育を目指すうえで大きな糧になったことは確かです。

金沢ふたば保育園の保育は、子どもたちのことを第一に考え、子どもたちを大切に、一人一人に寄り添った保育を実践するという信念で臨んで来ました。このような保育が第三者から見てどう評価されるか、また、保護者の方々にどう受け止められているかを把握する良い機会となりました。保護者の皆さんからは貴重なご意見も数多くいただき、今後の園運営、保育に生かす上で大変ありがとうございました。まだまだ反省しなければならない点多々あり、今後改善に努めていきたいと考えています。

この第三者評価を通して、痛切に感じたのは一生懸命に働いていらっしゃるお母さん方の立場です。お母さん方が望むなら、できるだけ長い時間お子さんをお預かりするのが保育園の責務かもしれませんが、お子さんにとってはそれがベストであるとは言い切れない矛盾があります。お子さんが小さければ小さいほどお母さんという時間を大切にしてほしいというのが保育園側の願いだからです。

現在、国は「子ども・子育て新システム」プランの中で、幼保一体化を目指す「こども園」の実現に向けた検討を急いでいますが、明日を担う子どもたちを社会全体としてどう育んでいくかが大きな課題だと思います。

なお、このたびの受審に際し、保育園運営等に関する評価項目について、当園の実情にそぐわず、あえて B ランク評価とさせていただいた箇所もありますので申し添えます。

金沢ふたば保育園 園長・職員一同

～ 評価結果は、下記のウェブサイトからも見ることができます ～

市民セクターよこはまの第三者評価のページ

<http://www.shimin-sector.jp/hyouka/>

横浜市(健康福祉局)の福祉サービス第三者評価のページ

<http://cgi.city.yokohama.jp/kenkou/jigyousyajoho/hyoukaall.cgi>

かながわ福祉サービス第三者評価推進機構のページ

<http://www.k-daisansyahyouka.org/>



特定非営利活動法人

市民セクターよこはま 評価・改善事業ユニット

かながわ福祉サービス第三者評価認証機関 第4号

横浜市福祉サービス第三者評価指定機関 第4号

〒231-0013 横浜市中区住吉町二丁目 26 番地 洋服会館 2 階

TEL:045-222-6501

FAX:045-222-6502

<http://www.shimin-sector.jp>
